

## 市立奈良病院を受診された患者様へ

当院では下記の臨床試験を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	<b>Usefulness of Transnasal Endoscopic Pharyngeal Observation in Surveillance of Esophageal Cancer.</b> (食道癌サーベイランスにおける経鼻内視鏡による咽頭観察の有効性)
当院の研究責任者	所属：消化器肝臓病センター・消化器内科 責任者：北村陽子
他の研究機関および各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	<p>背景: Field cancerization により食道癌患者に頭頸部癌が合併する頻度は高い。画像強調内視鏡の発展と、消化器内視鏡医の意識の高まり、咽頭癌の指摘が増えている。経口内視鏡で行うバルサルバ法は、喉頭の挙上に個人差があり、十分な視野が得られないことがある。また舌根部は位置的に観察困難である。当院では経口内視鏡での咽頭観察に加え、2025 年から 1200N を用いて経鼻ルートでの咽頭観察を行うようにし、食道癌治療予定例で、バルサルバ法を用いても咽頭可視性が向上しない症例あるいは観察できていない場合は、食道癌 ESD を手術室で行い、治療前に彎曲喉頭鏡で咽頭観察を行うにした。</p> <p>目的: 経鼻内視鏡を用いた検査を開始してからの病変存在部位からその有用性を評価すること。</p>
調査データの該当期間	2012 年 4 月から 2025 年 10 月
本研究の対象及び方法 (使用する試料等)	2012 年 4 月から 2025 年 10 月に、当院消化器内科で診断した頭頸部表在癌症例の内視鏡画像・病理組織画像や臨床データを後方視的に検討する。
試料・情報の 他の機関への提供	なし
個人情報の取り扱い	匿名化し個人を同定できないようを行う。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し、開示すべき利益相反はありません。

お問い合わせ先	T E L : 0742-24-1251 担当者：消化器肝臓病センター・消化器内科 北村陽子
備 考	